

入 選

# 大すきなピーちゃん

二年 小澤 凜

わたしのいえにはセキセイインコがいました。青色のきれいなインコでした。ペットショップにてかわいかったので、お母さんに「自分でおせわをするから」と何どもおねがいをし、やっとかってもらいました。よく、ピーとなくのでピーちゃんという名前をつけました。

ピーちゃんは毎日元気でしたが、一生けんめいおせわをしていてもときどきかまれたりしたので、おせわをするのがいやになることもありました。でも、なれてくると名前では呼ぶときてくれたり、手につてくれたりして、どんどんかわいと思うことがふえて大好きになっていきました。そして、しばらくするとたまごをうむようになりました。おせわをがんばったので、ピーちゃんも元気に成長してくれていると思って、わたしはともうれしくなりました。しかし、一年くらいたつと、たまごをうまなくなっていました。

ある日、かごから出してあげようと思いました。しかし、ようすがおかしいことに気づきました。いつもはうれしそうにとび出してくるのに出てきません。わたしはしんぱいになりました。けれど、いもうとがおきたので、ピーちゃんをおいて別のへやにいきました。そしてしばらくしてもどつてくると、わ

たしはびっくりしました。ピーちゃんが亡くなっていたからです。わたしは、ショックでなみだがとまりませんでした。

その日からわたしは、もつとインコについてべん強しなはいけないと思いました。ピーちゃんが元気がない時にもつといろいろできたのではないかとくやしくなったからです。

大切なことは、いきものをまい日おせわをするだけでなく、成長をみたり、天国にいけるようにしあわせにしてあげることだと思いました。ペットショップに行くたびにインコを見るけど、ピーちゃんと同じインコはいません。いのちはお金でかえるものじゃないと気がつきました。

もし次にまたインコをかえるときがきたらもつとインコのことをべん強して、ピーちゃんよりもつとしあわせにしてあげたいと思います。